



自ら健康に、水から健康に。

「健康のため水を飲もう」推進委員会

事務局／株式会社 水道産業新聞社
〒105-0003 東京都港区西新橋 3-5-2 TEL 03-6435-7644 FAX 03-3438-0025

2017.3.31



「健康のため水を飲もう」推進委員会



目次

- 1 「10年のあゆみ」発刊にあたり
- 2 本運動が10年を迎えて
- 3 「健康のため水を飲もう」推進運動とは
- 4 「健康のため水を飲もう」推進運動の歩み
- 7 これまでのPR事例
- 15 ポスターギャラリー
- 17 協賛実績
- 18 ポスター・チラシ配布枚数の推移
- 19 委員等の変遷

「健康のため水を飲もう」推進運動とは

背景

私たちが生きていくために「水」は欠くことのできない存在です。しかし、その摂取量が不十分であることによる健康への障害が多くの悲劇を引き起こしています。

生徒・児童等を中心に、**熱中症**による死亡事故は後を絶たず、また、中高年で多発する**脳梗塞**や**心筋梗塞**等も水分摂取量の不足が大きなリスク要因のひとつとなっています。

熱中症とは？

熱中症は、「高温環境下で、体内の水分や塩分などのバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害」の総称です。死に至る可能性のある病気ですが、**予防法を知っていれば防ぐことができます。**

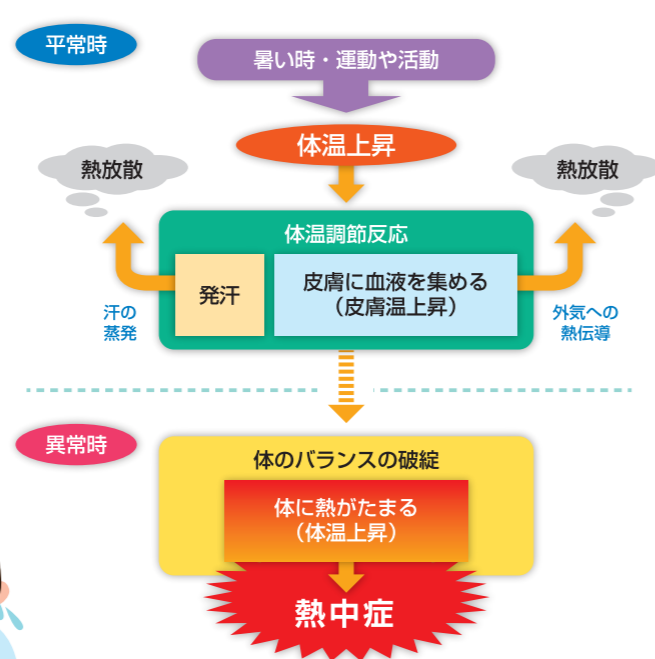
■ 体内水分の減少に伴う主な症状

水分減少率 (体重に占める割合)	主な症状
~2%	のどの渇き
3%~4%	食欲不振、イライラする 皮膚の紅潮、疲労困ぱい
5%~	言語不明瞭、呼吸困難 身体動揺、けいれん

脱水が進むと尿意が少なく、尿色が濃くなります。



■ 熱中症の起こり方



参考：環境省「熱中症環境保健マニュアル2014」

対策

脱水による健康障害や重大な事故などの予防には、**こまめな水分補給**が効果的です。寝る前、起床時、スポーツ中、入浴の前後、そして**のどが渇く前**に水分補給を心がけることが重要です。

委員会の設立

「健康のため水を飲んで、熱中症や脳梗塞などの重大な事故から尊い人命を守る。」

こういった運動を全国に広く浸透させるため、平成19(2007)年、10人の発起人による「健康のため水を飲もう」推進委員会を立ち上げました。

活動内容と期待される3つの成果

活動内容

健康維持と事故予防のために、**こまめに水を飲むという習慣の定着**を図るための各種活動を行っています。

内容 啓発ポスター・チラシを作成。各団体に協力を要請し、配布、展示等による広報活動を行っています。

時期 毎年5月上旬～

対象 ①水道事業者、②水道関連企業・団体、③学校・教育機関、④スポーツ団体、⑤保健所、⑥医師会 等

3つの成果

- 1 **こまめに水を飲む習慣の定着**
 - 2 「**運動中には水を飲まない**」などの**誤った常識をなくし**、正しい健康情報を普及する
 - 3 水道水など**身近にある水の大切さの再認識**
- 子どもから高齢者までの広く国民一般の健康増進、病気・事故の予防に寄与する

「健康のため水を飲もう」推進運動 構成

主催 「健康のため水を飲もう」推進委員会

後援 厚生労働省

委員会 委員長 **武藤 芳照** (日体大総合研究所所長、日本体育大学特別招聘教授、東京大学名誉教授)

副委員長 **吉田 永** (公益社団法人 日本水道協会 理事長)

委員 **泉 正文** (公益財団法人 日本体育協会 専務理事、公益財団法人 日本水泳連盟 副会長)

委員 **宮崎 正信** (厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部 水道課長)

委員 **太田(福島) 美穂** (NPO 法人 水と健康スポーツ医学研究所 理事長)

委員 **竹中 雅彦** (公益財団法人 日本高等学校野球連盟 事務局長)

委員 **寺西 新** (東京都中野区保健所長)

委員 **仁井 正夫** (一般社団法人 日本水道工業団体連合会 専務理事)

委員 **西原 一裕** (株式会社 水道産業新聞社 代表取締役社長)

委員 **磯部 光徳** (株式会社 日本水道新聞社 取締役新聞事業部長)

(順不同、平成29年3月31日現在)

協賛 全国の水道事業者、水道関連企業・団体、(公財)日本高等学校野球連盟、(公財)日本体育協会、(公財)日本水泳連盟、(公社)日本水道協会、(一社)日本水道工業団体連合会 等

事務局 株式会社 水道産業新聞社

「健康のため水を飲もう」推進運動の歩み



平成 18 (2006) 年 運動開始。水道産業新聞社主催、厚生労働省後援でポスター制作・配布

平成 19 (2007) 年 委員会設立、HP 立ち上げ

- 4月10日 **第1回委員会(委員会発足式)**
 - ・運動の一環として啓発ポスター(B2判)制作、配布を決定
 - ・厚生労働省水道課および事務局(水道産業新聞社)HPに運動ページを制作
- 9月25日 **第2回委員会**
 - ・(協賛団体からのアンケート結果より)ポスターサイズをB2→A2判に変更

平成 20 (2008) 年 ポスター2万枚突破、委員会規約制定、チラシ作成

- 4月14日 **第3回委員会(西山正徳・厚生労働省健康局長出席)**
 - ・委員会規約(案)を審議
 - ・チラシ作成を決定
- 9月22日 **第4回委員会**
 - ・委員会規約(修正案)を審議⇒制定
 - ・ポスター配布枚数が20,000枚突破



平成 21 (2009) 年 連携を検討

- 3月9日 **第5回委員会**
 - ・活動計画書(案)を審議⇒制定
 - ・ロゴ(案)を審議
 - ・公共広告機構(AC)の活用を検討
- 9月14日 **第6回委員会**
 - ・厚生労働省水道課HPリニューアル(各委員HPをリンク)
- 12月17日 助ミズノスポーツ振興会に助成金申請書を提出

平成 22 (2010) 年 連携および Q&A を検討

- 1月4日 日本製薬団体連合会および(社)日本経済団体連合会に趣意書を提出
- 3月15日 **第7回委員会**
 - ・『マイボトル・マイカップキャンペーン』との連携を検討
- 10月4日 **第8回委員会**
 - ・HPにQ&A掲載を審議



HPの検索数は増えているが年齢層は不明。「健康」「水」というキーワード検索で考えると、子供は多くないと思われる。受け手がわからない状態では、独自のHPを立ち上げるのは難しい。HPを立ち上げて、維持管理をしていくには組織が必要で、今の体制では難しい。「水と健康」に関わる団体、機関、マスコミのQ&Aを少しずつ集めて参考資料を蓄積して、次のステップで検討する。HPは慎重に進めた方が良いとの結論。

平成 23 (2011) 年 委員会名称の変更、使用規約制定

- 3月7日 **第9回委員会**
 - ・厚生労働省水道課HP運動ページアクセス数の報告[平成19年7月約1,700件・平成20年1月約2,200件]⇒[平成22年7月5,100件・平成23年1月約2,200件]とアクセス数は年々増加傾向にある。
 - ・ポスター、キャッチフレーズ、文言等の使用規約・申請書(案)を審議⇒制定
 - ・ロゴマーク案を審議
- 9月26日 **第10回委員会**
 - ・委員会名称の変更(健康のため水を飲もう推進委員会⇒「健康のため水を飲もう」推進委員会)「」をつける。

平成 24 (2012) 年 連携を検討

- 4月4日 **第11回委員会**
 - ・ロゴマーク案を審議⇒公募で標語およびシンボルマークを決定することに
 - ・『マイボトル・マイカップキャンペーン』との連携を検討
 - ・『熱中症予防声かけプロジェクト』との連携を検討
- 9月6日 **第12回委員会**
 - ・シンボルマーク応募要項(案)を審議⇒新聞紙面、HP、公募ガイド等で募集

平成 25 (2013) 年 標語およびシンボルマーク公募

- 3月4日 **第13回委員会**
 - ・標語およびシンボルマーク応募作品の審査⇒各最優秀作品が決定
 - 【応募総数】[標語]4,706点、[マーク]625点
 - 【応募年齢】[標語]小2~96歳、[マーク]10歳~82歳
 - 【応募国】日本、フランス、オーストラリア、ハワイ、韓国、シンガポール
- 9月18日 **第14回委員会**



平成 26 (2014) 年 瀬戸大也選手をポスターに起用

- 3月12日 **第15回委員会**
 - ・瀬戸大也選手(第15回FINA世界水泳選手権大会男子400m個人メドレー金メダリスト)をポスターに起用
 - ・チラシのリニューアル
- 10月23日 **第16回委員会**

平成 27 (2015) 年 ポスター2万5,000枚突破、企画書作成

- 2月16日 環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課の加藤課長補佐、大木氏と面談し、連携を検討
- 2月18日 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課学校安全係の中出係長、斎藤氏と面談し、連携を検討
- 3月3日 **第17回委員会**
 - ・企画書(案)を審議⇒作成
 - ・グッズの販売を審議⇒水道産業新聞社および日本水道新聞社取扱商品にシンボルマーク等を刷り込んで販売可能に
- 11月10日 **第18回委員会**
 - ・ポスター配布枚数が2万5,000枚を突破

平成 28 (2016) 年 チラシのリニューアル・2万5,000枚を突破、川柳募集

- 2月22日 **第19回委員会**
 - ・独自HPの制作、他キャンペーンとの連携を検討
 - ・協賛1口におけるチラシ枚数を増加(500枚⇒1,000枚)
 - ・チラシのリニューアル(応急措置の内容を追加)
- 6月6日 スポーツ庁の平井スポーツ統括官と面談⇒本運動の概要を説明
- 6月13日 日本財団の吉倉総務部長、同パラリンピックサポートセンターの渡邊広報部プロジェクトリーダーと面談⇒本運動の概要を説明
- 9月12日 **第20回委員会**
 - ・チラシ配布枚数が2万5,000枚を突破
 - ・「第1回健康のため水を飲もう川柳」開催を決定



これまでのPR事例

本運動では、運動開始直後から委員をはじめ、全国の水道事業者、水道関連企業・団体、その他団体等のご協力により、様々なシーンで、ポスターおよびチラシを活用して、こまめな水分補給の大切さをPRしていただきました。以下、その一部をご紹介します。

START

平成19年

2007

- ▶第89回全国高等学校野球選手権大会(主催：朝日新聞社、日本高等学校野球連盟)の地方大会でポスター400枚掲示および注意喚起アナウンス※、全国大会(8月8日-22日)の阪神甲子園球場バックスクリーンフリーボードでのポスター放映(毎日第1試合前の時間帯と、各試合5回のあとのブレイクタイムで放送)と、注意喚起アナウンス※を実施

※「しっかり水分、元気な夏！こまめに水分を飲みましょう！熱中症、脳梗塞といった健康障害や重大な事故を防ぐためには水分補給が大切です。喉が渇く前に、早めに水分を補給しましょう。」



- ▶熊本日日新聞5月16日付で本運動を紹介
- ▶徳島新聞5月16日付で本運動を紹介
- ▶暮らしと健康の月刊誌「ケア」8月号で本運動を紹介
- ▶全国保健センター連合会「MONTHLY 保健センター」No.135(7月号)で本運動を紹介
- ▶水道産業新聞4月12日付で第1回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞4月21日付で第1回委員会記事を掲載
- ▶水道産業新聞8月20日付で甲子園球場におけるPR記事を掲載
- ▶水道産業新聞10月1日付で第2回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞9月28日付で第2回委員会記事を掲載

平成20年

2008

- ▶第90回全国高等学校野球選手権記念大会の地方大会47地区でポスター244枚掲示および注意喚起アナウンス、全国大会(8月2日-18日)の阪神甲子園球場バックスクリーンフリーボードでのポスター放映と、注意喚起アナウンスを実施



- ▶夏季国体の水泳会場(大分県)とインターハイ(埼玉県)で注意喚起アナウンスを実施
- ▶(財)日本水泳連盟・機関誌「月刊水泳」でチラシを掲載
- ▶都道府県水泳連盟を窓口にして全国の水泳場にポスター500枚、チラシ2,000枚を配布
- ▶日本水道会館でポスターを掲示
- ▶(社)日本水道協会全国各県支部長都市、日本水道協会大阪支所にポスター・チラシを配布
- ▶(社)日本水道協会講演会で本運動を紹介
- ▶(社)日本水道工業団体連合会会員企業・団体向け情報提供
- ▶環境省主催「熱中症シンポジウム」でポスター掲示、チラシ200枚を配布
- ▶「大学生・高校生のための現場のスポーツ医学入門」で本運動を紹介
- ▶東京都水道局・広報誌「水道ニュース」No.22(7月)およびNo.23(10月)で本運動を紹介
- ▶川崎市水道局・広報誌「かわさきの水道」No.53(8月)で本運動を紹介
- ▶教育医事新聞6月25日付で本運動を紹介
- ▶水道産業新聞4月17日付で第3回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞4月21日付で第3回委員会記事を掲載
- ▶水道産業新聞6月16日付でポスター完成記事を掲載
- ▶水道産業新聞6月30日付社説で本運動を紹介
- ▶水道産業新聞8月11日付で甲子園球場におけるPR記事を掲載

- ▶水道産業新聞10月2日付で第4回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞10月9日付で第4回委員会記事を掲載

平成21年

2009

- ▶第91回全国高等学校野球選手権大会の地方大会でポスター掲示および啓発アナウンス、全国大会(8月8日-24日)の阪神甲子園球場バックスクリーンフリーボードでのポスター放映と、注意喚起アナウンスを実施



- ▶夏季国体の水泳会場(新潟県)とインターハイ(大阪府)で注意喚起アナウンスを実施
- ▶(社)日本水道会館でポスターを掲示
- ▶(社)日本水道協会支部長都市にポスター・チラシを配布
- ▶(社)日本水道工業団体連合会会員企業・団体向け情報提供
- ▶富山市の日本初LRT次世代型路面電車「ポートラム」(8月-9月)の車内液晶モニターでポスターを放映
- ▶京都市上下水道局・夏期街頭キャンペーンチラシ(8月)で本運動を紹介
- ▶旭川市水道局・広報紙「こんにちは 水道局です」第26号(11月)で本運動を紹介
- ▶南部水道企業団・広報誌「清ら水だより」Vol.19(2月)で本運動を紹介
- ▶伊丹市水道局・広報誌「いたみの水道」第23号(12月号)でポスターを紹介
- ▶「3分クッキング」12月号でポスターを紹介
- ▶ダスキン情報誌「水とのつきあい方」で本運動を紹介
- ▶日本マスターズ水泳協会「マスターズニュース」第97号で本運動を紹介



- ▶水を語る会(1月17日)で武藤委員長が本運動について講演
- ▶水道産業新聞3月12日付で第5回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞3月30日付で第5回委員会記事を掲載
- ▶水道産業新聞2月26日、3月16日、4月2日付で「水を語る会」での武藤委員長講演記事を掲載
- ▶日本水道新聞4月27日付で本運動を紹介
- ▶水道産業新聞6月8日付でポスター完成記事を掲載
- ▶水道産業新聞6月25日付でポスター配布開始記事を掲載
- ▶水道産業新聞7月9日付でポスター配布枚数2万枚突破記事を掲載
- ▶水道産業新聞8月20日付で甲子園球場におけるPR記事を掲載
- ▶水道産業新聞9月17日付で第6回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞9月28日付で第6回委員会記事を掲載

平成22年

2010

- ▶第92回全国高等学校野球選手権大会・全国大会(8月7日-21日)で、阪神甲子園球場バックスクリーンフリーボードでのポスター放映と、注意喚起アナウンスを実施



- ▶夏季国体の水泳会場(千葉県)とインターハイ(沖縄県)で注意喚起アナウンスを実施
- ▶(財)日本水泳連盟でチラシ8,000枚を作成し、学校、クラブ、スイミングスクール等の登録団体に配布
- ▶第78回全国高等学校選手権水泳競技大会(沖縄県・8月17日-20日)の監督者会議で、チラシおよびポスターを配布、説明
- ▶第50回全国中学校水泳競技大会(広島県・8月21日-23日)の監督者会議で、チラシおよびポスターを配布、説明
- ▶日本水道会館でポスターを掲示
- ▶(社)日本水道協会支部長都市にポスター・チラシを配布

- ▶(社)日本水道工業団体連合会会員企業・団体にチラシを配布
- ▶(社)日本水道工業団体連合会講演会で武藤委員長が本運動について講演
- ▶京都市上下水道局・夏期街頭キャンペーンチラシ(8月)にポスターを掲載
- ▶政治評論家・森田実氏ブログ「言わねばならぬ 855」9月11日付で本運動を紹介
- ▶教育医事新聞6月25日付で本運動を紹介
- ▶水道産業新聞1月1日付で新春特別座談会「『健康のため水を飲もう推進運動』の新たな展開」を掲載(武藤芳照氏、吉口進朗氏、小森年展氏、泉正文氏、司会=西原一裕)
- ▶水道産業新聞3月25日付で第7回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞3月18日付で第7回委員会記事を掲載
- ▶水道産業新聞6月14日付でポスター完成記事を掲載
- ▶日本水道新聞6月17日付でポスター完成記事を掲載
- ▶水道産業新聞6月21日付で本運動記事を掲載
- ▶水道産業新聞7月26日付で本運動記事を掲載
- ▶水道産業新聞8月9日付で阪神甲子園球場におけるPR記事を掲載
- ▶水道産業新聞10月14日付で第8回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞10月25日付で第8回委員会記事を掲載
- ▶8月31日、啓発本『健康のため水を飲もう』(武藤芳照氏著)を発刊

平成 23 年

2011

- ▶第93回全国高等学校野球選手権大会・全国大会(8月6日-20日)で、阪神甲子園球場バックスクリーンフリーボードでのポスター放映と、注意喚起アナウンスを実施



- ▶夏季国体の水泳会場(山口県)とインターハイ(岩手県)で注意喚起アナウンスを実施
- ▶(財)日本水泳連盟でチラシ 7,000 枚を作成し、学校、クラブ、スイミングスクール等の全登録団体に配布
- ▶第79回全国高等学校選手権水泳競技大会(岩手県・8月17日-20日)の監督者会議で、チラシおよびポスターを配布、説明
- ▶第51回全国中学校水泳競技大会での活用(大阪府・8月21日-23日)の監督者会議で、チラシおよびポスターを配布、説明
- ▶日本水道会館でポスターを掲示
- ▶(社)日本水道協会支部長都市にポスター・チラシを配布
- ▶(社)日本水道工業団体連合会会員企業・団体にチラシを配布
- ▶(社)日本水道工業団体連合会・機関誌「水団連」No.107より武藤委員長が本運動に関する連載(計8回)を開始
- ▶広島市水道局庁舎入り口看板で本運動をPR



- ▶会津若松市水道部・広報誌「水道あいづわかまつ」No.67(6月)で本運動を紹介
- ▶光市水道局・広報誌「光の水だより」11月号で本運動を紹介
- ▶南部水道企業団・広報誌「清ら水だより」Vol.24(10月)にチラシを掲載
- ▶全国管工事業協同組合連合会「全管連ニュース」7月1日付および8月1日付、「全管連ジャーナル」7月号で本運動を紹介
- ▶シンガポール国際水週間 2011 水エキスポの日本水フォーラム等の共同出展ブースで、ポスターパネルを展示
- ▶水道産業新聞3月17日付で第9回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞3月10日付で第9回委員会記事を掲載
- ▶水道産業新聞8月11日付で阪神甲子園球場におけるPR記事を掲載
- ▶水道産業新聞10月10日付で第10回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞10月13日付で第10回委員会記事を掲載

平成 24 年

2012

- ▶第94回全国高等学校野球選手権大会・全国大会(8月8日-23日)で、阪神甲子園球場バックスクリーンフリーボードでのポスター放映と、注意喚起アナウンスを実施



- ▶日本体育協会館内全階でポスターを掲示
- ▶第67回国民体育大会夏季水泳競技会(岐阜県・9月13日-17日)の監督者会議でチラシ配布、ポスター掲示
- ▶(公財)日本水泳連盟でチラシ7,000枚を作成し、学校、クラブ、スイミングスクール等の全登録団体をはじめ大会等で配布
- ▶第80回全国高等学校選手権水泳競技大会(新潟県・8月17日-20日)の監督者会議でチラシ配布・説明およびポスター掲示
- ▶第52回全国中学校水泳競技大会(栃木県・8月21日-23日)の監督者会議で、チラシ配布・説明およびポスター掲示
- ▶第35回全国JOCジュニアオリンピックカップ大会(東京都・8月25日-30日)の監督者会議でチラシ配布・説明
- ▶大田区イベント等でポスターを配布・掲示
- ▶日本水道会館でポスターを掲示
- ▶(公社)日本水道協会支部長都市にポスター・チラシを配布
- ▶千代田区役所でポスターを掲示
- ▶(一社)日本水道工業団体連合会会員企業・団体向け情報提供
- ▶東京大マラソン祭り2012(2月25日)、東京マラソンEXPO(2月23日-25日)の東京都水道局ブースで本運動を紹介したパネルを展示
- ▶明石市水道部で横断幕やポルトドウォーターを作成し本運動をPR



- ▶新潟市水道局で垂れ幕を作成し水分補給の必要性をPR
- ▶会津若松市水道部・広報誌「水道あいづわかまつ」No.69(3月)で本運動を紹介
- ▶全国管工事業協同組合連合会「全管連ジャーナル」7月号で本運動を紹介
- ▶日本水道新聞4月9日付で第11回委員会記事を掲載
- ▶水道産業新聞6月7日付でポスター完成記事を掲載
- ▶水道産業新聞8月13日付で阪神甲子園球場におけるPR記事を掲載
- ▶水道産業新聞9月13日付で第12回委員会記事を掲載
- ▶日本水道新聞9月10日付で第12回委員会記事を掲載
- ▶水道産業新聞12月3日付で本運動シンボルマークおよび標語募集記事を掲載

平成 25 年

2013

- ▶平成25年度標語および本運動シンボルマークを公募(平成24年10月22日-平成25年2月22日)。日本全国をはじめ、フランスやオーストラリア、アメリカ、韓国など世界各国、6歳-96歳の幅広い年齢層の方から合計5,331点の応募があり、下記作品に決定。

標語部

最優秀賞作品
「水飲もう! 元気ならしの 合言葉」
山野 大輔さん(37歳・大阪府)

シンボルマークの部

最優秀賞作品
鶴飼 祥世さん
(35歳・長野県)



- ▶第95回全国高等学校野球選手権記念大会・全国大会(8月8日-22日)で、阪神甲子園球場バックスクリーンフリーボードでのポスター放映と、注意喚起アナウンスを実施

